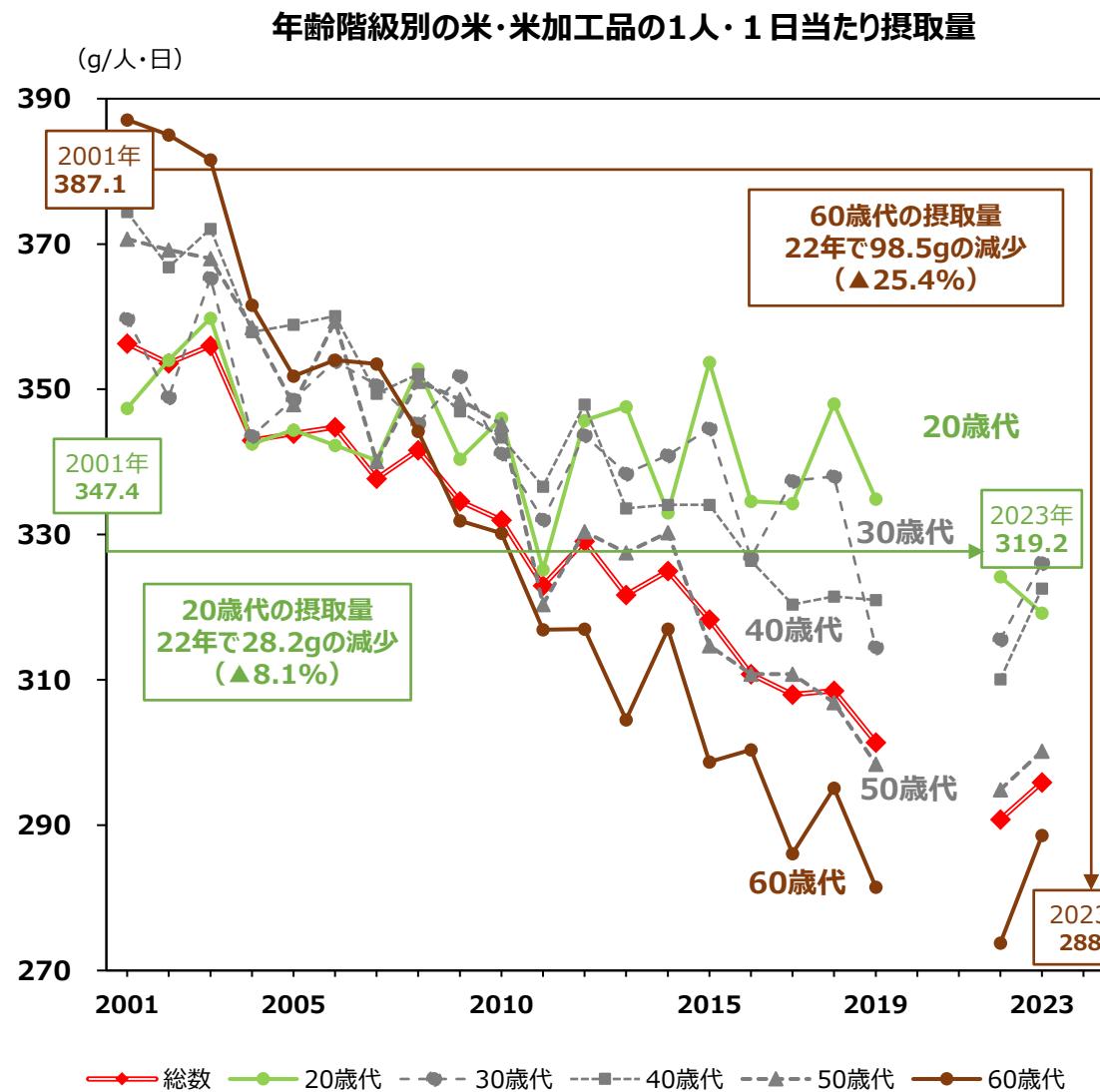


(参考資料)

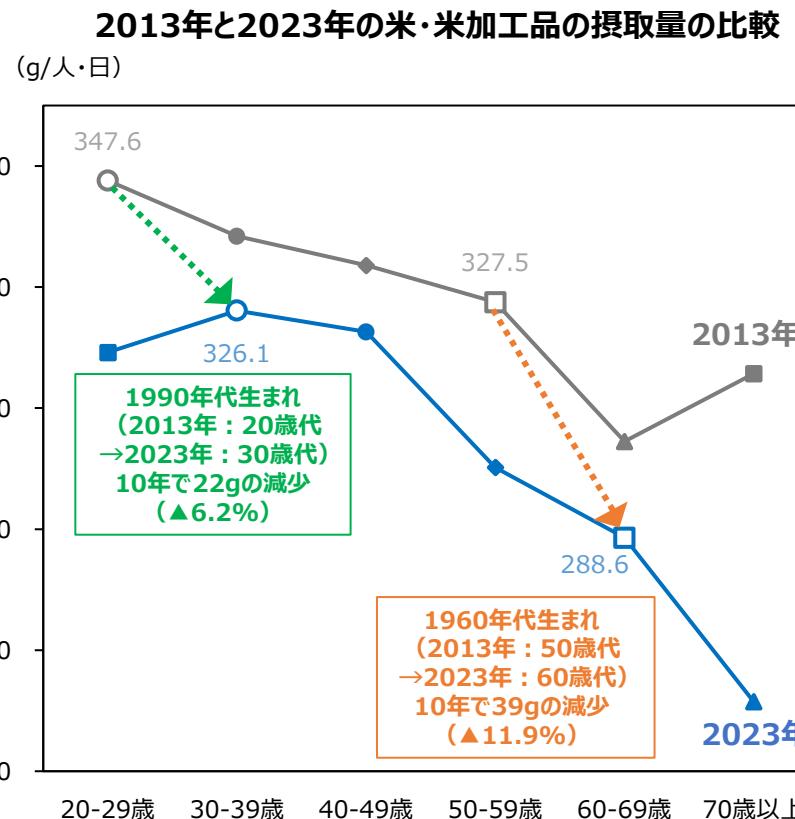
年齢別の米の消費データ等

米・米加工品の年齢階級別の摂取量の推移

- 米・米加工品の1人・1日当たり摂取量の年代別の推移を見ると、近年、若年層より高齢層で米の消費減に拍車がかかっている傾向が窺われる。



(注) 米・米加工品の分類には以下の食品が含まれる。
米：玄米、精白米、もち米、発芽玄米、かゆ等
米加工品：アルファ化米、おにぎり、もち、赤飯、上新粉、米粉等



出典：厚生労働省「国民健康・栄養調査」

注：青柳斉新潟大学名誉教授の成果を参考し、農林水産省で作成

米の年齢階級別の摂取量に基づく2025年の需要量の試算

- 米の1人あたり消費量（2022、2023年）は、若年層が多く高齢層は少ない傾向。
- これをもとに、2025年の年齢別1人あたり消費量を推計し、年齢別の人口を乗じることで、**2025年の需要量（精米ベース）は625.3万トンと試算。需要見通しの幅に当てはまる水準**となっている。
- なお、試算の前提としている年齢別の米の摂取量は、各年1日分の食事内容の調査結果であることに留意。

年齢別の1人あたり消費量（精米ベース）

(kg)

	2020	2021	2022	2023	2024
19歳以下			52.1	52.2	
20～29歳			54.5	53.2	
30～39歳	「国民健康・栄養調査」 中止		53.1	54.4	未公表
40～49歳			52.1	53.8	
50～59歳			49.6	50.0	
60～69歳			46.0	48.1	
70歳以上			44.6	43.6	

- 年齢別の1人あたり消費量は、年齢別の米の摂取量（厚労省「国民健康・栄養調査」）の比率で、米穀の需要見通しにおける各米穀年度のインバウンドを除いた需要実績（2022年：R4/5 620万精米トン、2023年：R5/6 621万精米トン）を按分して推計
- 「国民健康・栄養調査」は、毎年11月のある1日分の食事内容の調査結果であることに留意

資料：厚生労働省「国民健康・栄養調査」、総務省「人口推計」

(注1) 「国民健康・栄養調査」は、2020年及び2021年は調査中止。2024年実績値は令和7年11月公表予定。

(注2) 「国民健康・栄養調査」は、1日分の食事内容の調査。毎年11月のなるべく普通の摂取状態にある1日（日曜・祝祭日・冠婚葬祭

その他特別に食物摂取に変化のある日を避けた一日）に調査を実施。食品の重量は調理を加味した数量であり、米は「めし」・「かゆ」などで算出。

(注3) 2025年の人口は「人口推計（令和7年9月1日時点）」による。

2025年の需要量の試算（精米ベース）

1人あたり消費量は、2か年（2022、2023）のうちの大きい値を採用

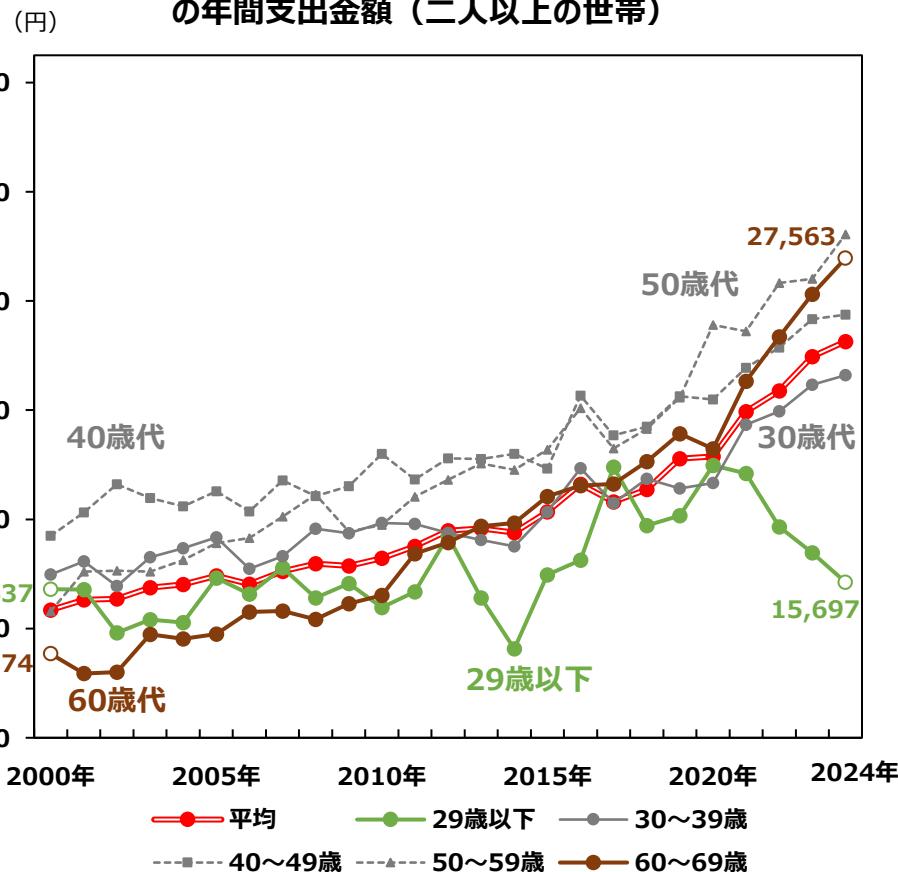
	1人あたり消費量 (Kg/人)	2025年の人口 (万人)	需要量 (万トン)
19歳以下	52.2	1,897	99.0
20～29歳	54.5	1,275	69.5
30～39歳	54.4	1,316	71.5
40～49歳	53.8	1,596	85.8
50～59歳	50.0	1,841	92.1
60～69歳	48.1	1,492	71.8
70歳以上	44.6	2,902	129.4
合計	-	12,317	619.1

+ インバウンド = **625.3
6.1万トン
万トン**

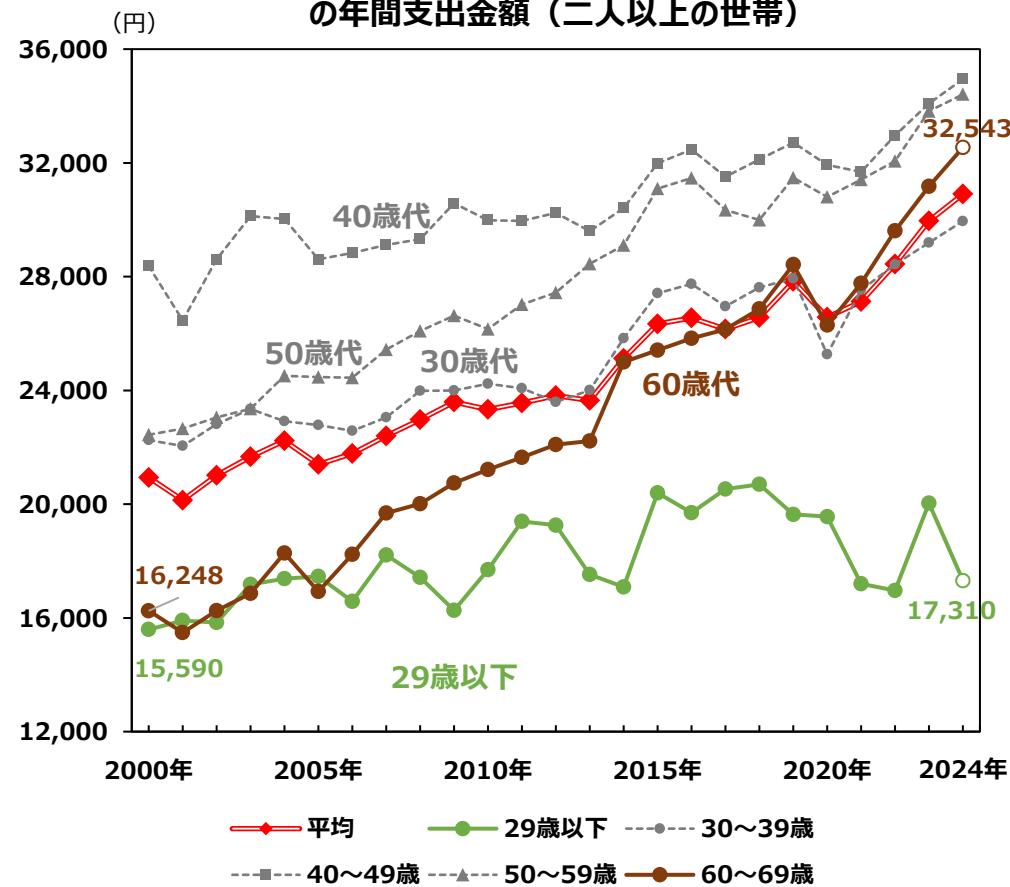
主食・主食的調理食品の1世帯当たりの年間支出金額の推移

- 弁当、おにぎり・その他（米を含む主食的調理食品）の支出金額の推移を見ると、全体として増加傾向にあり、特に60歳代の支出金額が大きく増加している。
- また、パンの中でも『他のパン』、『調理パン』の支出金額の推移を見ると、全体として増加傾向にある中でも、29歳以下の支出金額の増加割合は小さい一方、60歳代の支出金額は一貫して増加傾向にある。

世帯主の年齢階級別の「弁当」及び「おにぎり・その他」
の年間支出金額（二人以上の世帯）



世帯主の年齢階級別の「他のパン」及び「調理パン」
の年間支出金額（二人以上の世帯）



出典：総務省「家計調査（二人以上の世帯）」

注1：家計調査における項目名の内容例示

弁当：飲食店以外の持ち帰りのもの。おかずとセットのもの。冷凍は除く。（例：幕の内弁当、焼肉弁当、折詰弁当、駅弁）

おにぎり・その他：弁当、すし（弁当）に分類されない単品の米飯。冷凍は除く。（例：おにぎり、赤飯、山菜飯）

他のパン：パンのうち、基本的な原材料以外の材料を加え、初めから一つに成形されたパン。（例：あんパン、ジャムパン、カレーパン等）

調理パン：パンを材料として、それに加工食品、調理食品、野菜、果物などを挟んで調製されたもの。（例：サンドwich、焼きそばパン、ホットドッグ、ハンバーガー等）

注2：青柳斉新潟大学名誉教授の成果を参照し、農林水産省で作成

60歳代の主食に対する1世帯当たり年間支出金額の推移

- 60歳代の主食に対する年間支出金額を見ると、米への支出が大きく減少している一方で、他のパン・調理パン、弁当・おにぎり、即席麺への支出金額が増加しており、簡便志向により中食・外食消費が増加している傾向が窺われる。

